



2027横浜
国際園芸博覧会

横浜市における基本計画の検討状況

第1回目

1. 基本認識
2. テーマ・サブテーマ・事業コンセプト
3. 参加方針
4. 事業運営計画
5. 会場計画
6. コミュニケーション計画
7. 輸送計画
8. レガシー計画
9. 事業費・事業スケジュール

基本認識、サブテーマ、事業コンセプト等を中心に議論

第2回目（本日）

1. 基本認識
2. テーマ・サブテーマ・事業コンセプト
3. 参加方針
4. コミュニケーション計画
5. 会場計画
6. 展示・行催事計画
7. 会場運営・管理計画
8. 輸送計画
9. 情報基盤計画
10. 組織・資金計画
11. リスク管理計画
12. レガシー計画

第1回目検討会で議論したサブテーマ・事業コンセプト等から具体的な方針を提示

第3回目（2月）

第1回・第2回
検討会の
取りまとめ

第1回、2回での議論を踏まえ、計画市案取りまとめ

1. 基本認識

国際博覧会（国内）

大阪万博（1970）

「人類の進歩と調和」
会場面積：330ha
来場者数：6422万人

愛知万博（2005）

「自然の叡知」
会場面積：173ha
来場者数：2205万人

大阪関西万博（2025）

「いのち輝く未来社会のデザイン」
会場面積：155ha
来場者数：2800万人※想定

【意識すべき視点】

- ・気候変動枠組条約
- ・生物多様性条約
- ・SDGs（持続可能な都市の実現等）
- ・Green City（AIPH提唱）
- ・課題解決に向けた
創発・交流型の万博への転換（BIE総会決議）

国際園芸博覧会（国内）

大阪花博（1990）

「都市・花・文化」
会場面積：140ha
来場者：2313万人

淡路花博（2000）

「人と自然のコミュニケーション」
会場面積：96ha
来場者：695万人

浜名湖花博（2004）

「花・緑・水」
会場面積：56ha
来場者数：545万人

国際園芸博覧会（世界）

フェンロー（2012）
「自然と調和する人生」

会場面積：66ha
来場者：205万人

アンタルヤ（2016）
「花と子供達」

会場面積：112ha
来場者：450万人

北京（2019）
「緑色生活美麗家園」

会場面積：960ha
来場者：934万人

アルメーレ（2022）
「成長する緑の都市」

会場面積：60ha
来場者：200万人
※想定

ドーハ（2023）
「緑の砂漠、より良い環境」

会場面積：170ha
来場者：300万人
※想定

2027横浜 国際園芸博覧会

～幸せを創る明日の風景～

自然との調和
Co-adjustment

緑や農による共存
Co-existence

新産業の創出
Co-creation

連携による解決
Co-operation

地球規模の社会課題に対して、
市民・企業等の意識変容・行動変容を促す
リアルな展示や提案

新たな花き・園芸文化の
創出と関連産業の発展

心豊かなライフスタイルを
世界に定着

花き・園芸
産業等の振興

2. テーマ・サブテーマ・事業コンセプト

テーマ

幸せを創る明日の風景 – Scenery of The Future for Happiness –



サブテーマ

テーマを展開し、具現化するための切口。特に、各国や企業等への招請に際し、各主体の関心分野と博覧会を具体的に結びつけ、出展の意思決定をする際の判断材料となるもの

自然との調和
Co-adjustment

緑や農による共存
Co-existence

新産業の創出
Co-creation

連携による解決
Co-operation



博覧会事業展開を念頭に一体的に整理

事業コンセプト

テーマ・サブテーマに基づいた博覧会事業（会場、展示、行催事、事業構造、運営など）の展開にあたり、全体に通底する具体的な方針・方向性として、博覧会事業に携わる全ての関係者が重視・共有すべきもの

価値を再定義する
Revise

多様性に気付く
Find

行動変容に繋げる
Change

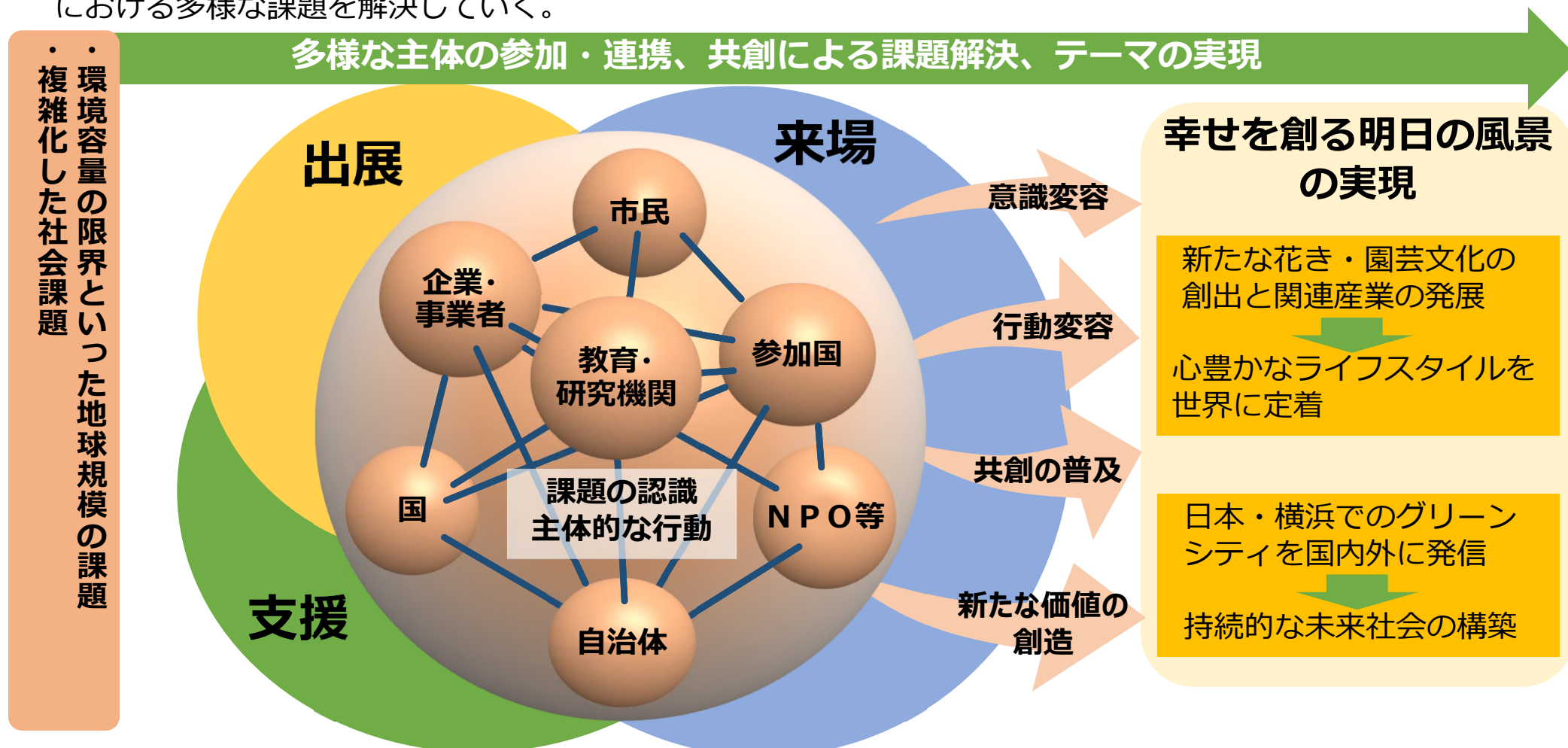
分かち合う
Share

環境負荷低減を徹底する
Care

繋がりを広げる
Connect

3. 多様な主体の参加と共創

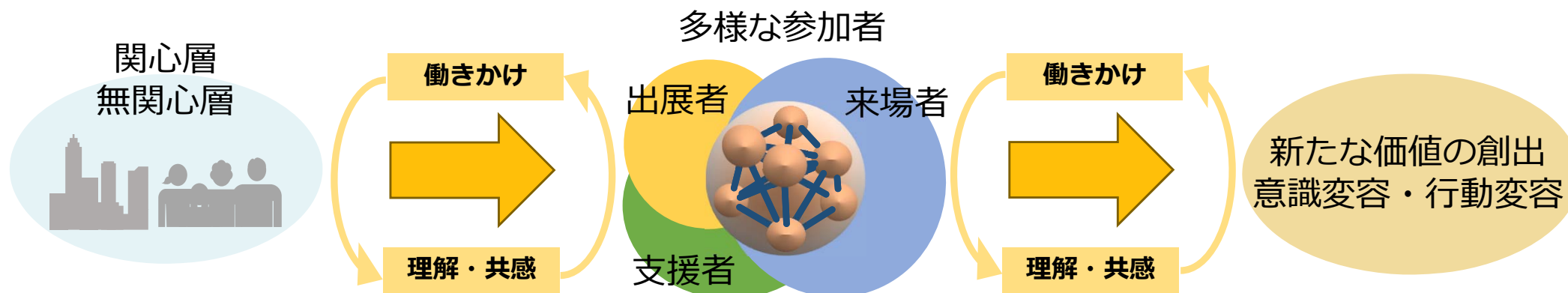
- 環境容量の限界といった地球規模の危機や複雑化する社会課題に直面し、個による解決が困難な課題が増加している中で、持続的な未来を築くためには、全世界のあらゆる分野の人々との連携や英知の結集が必要。
- 「来場」「出展」「支援」の各形態で参加する「多様な主体」の連携には、ひとりひとりが課題を解決するための一員であることを自覚し、主体的に行動することが重要。本博覧会では「来場者」についても、主体的な参加を求めている。
- 複雑化する社会課題の解決には、異なる立場や視点を有する「多様な主体」が連携・協力し、「共創」によって突破口を開くことが不可欠。関西・大阪万博の共創チャレンジ等の手法も取り込みながら、国際園芸博覧会における多様な課題を解決していく。



4.1 コミュニケーション計画

(1) コミュニケーション計画の考え方

- 本博覧会の目的を達成するため、参加者及び参加者となり得るすべての者を対象として働きかけを行うことにより、意図を理解し合い、共感を獲得し、関係を構築することをコミュニケーションと捉える。
- コミュニケーションを通じて、博覧会に対する機運の醸成、多数の多様な主体（「来場者」「出展者」「支援者」）の本博覧会への参加の実現を図り、連携・共創を通じた新たな価値の創出、参加者の意識変容・行動変容を実現し、継続・発展させることを目指す。



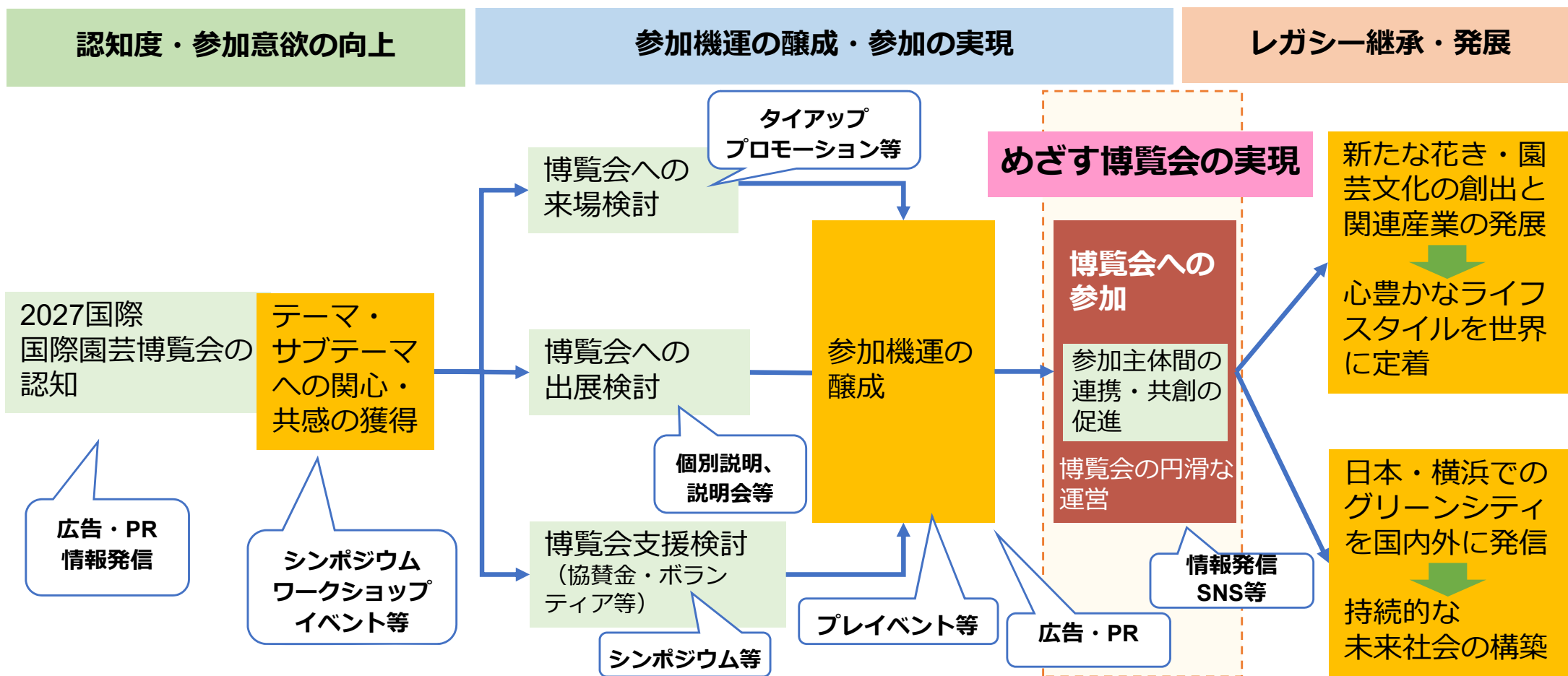
(2) コミュニケーション計画の目的

- 国内外の幅広い主体に対して、本博覧会を周知し、認知度を高め、機運を醸成する
- 双方向の情報交換・意見交換等により、共感の獲得と博覧会への具体的参加につなげる
- 多様な主体間の連携、共創を通じて新たな価値を創出し、継続・発展させる
- 関わった人々の意識変容・行動変容を実現させる
- 適切な情報提供や対応により、安全、円滑な博覧会運営（輸送を含む）を準備段階から支える

4.1 コミュニケーション計画

(3) コミュニケーションの展開

- ・ より多くの主体の博覧会への参加を得て、博覧会の目的・目標を実現し、さらに博覧会により形成されたレガシーを継承・発展させるという流れを念頭に置き、**「認知度・参加意欲の向上」「参加機運の醸成・参加の実現」「レガシーの継承・発展」**の3つのフェーズでコミュニケーションを展開していく。
- ・ 対象者と直接的に情報交換するダイレクトコミュニケーション、一時に大人数の市民に情報伝達するマスコミュニケーション等の**手段を適切に活用し、効果的なコミュニケーションを行う。**



4.2 年次別展開

- 開催までの準備～開催～終了に至る全体のスケジュールに沿って、年次計画を立て、効果的にコミュニケーションを展開する。
- 特に、「BIE承認」「参加招請」「会場整備」「前売券発売」「博覧会開幕・閉幕」等が重要なマイルストーンとなることを意識し、博覧会を成功に導くように取り組む。
- 2025年大阪・関西万博と連携し相乗効果を生むよう取り組む。また、海外における国際園芸博覧会等を国外向けのPR機会として積極的に活用する。

2021

2023

2025

2027

2028～

認知度・参加意欲の向上

参加機運の醸成・参加の実現

レガシー継承・発展

○BIE承認 ○参加招請

○会場整備

○前売券発売

○博覧会期間

★2022アルメレ

★2023ドーハ

★2025大阪・関西万博

【展開イメージ】

主に支援者、出展者の認知度を向上させるため、講演会、イベントの開催及びメディア広報などを実施

【展開イメージ】

主に出展者、来場者の参加意欲を向上するため、シンポジウムやワークショップなどで本博覧会の内容・意義を周知

【展開イメージ】

出展・来場・支援の各ターゲットに、参加の実現と積極的な参加促進のため、プレイベントの実施などを行う

新たな価値の
創出

意識変容・
行動変容

【展開イメージ】

行動変容を促すフォローを実施する。レガシーとして受け継がれるように継続的なコミュニケーションを実施



WEB等による情報発信



参加型ワークショップ



イベント出展PR



花と緑のイベント



コミュニケーションの継続

会場計画目次

5.1 会場計画

- (1) 広域的な自然特性
- (2) 土地改変から見た自然特性
- (3) 会場区域の設定
- (4) 将来まちづくりの検討状況
- (5) 会場区域とまちづくりの関係

5.2 会場コンセプト

5.3 グリーンインフラ計画

5.4 景観計画（ランドスケープ・建築）

5.5 会場構成

- (1) 国際園芸博覧会を彩る庭園等
- (2) 展示等の施設

5.6 動線計画

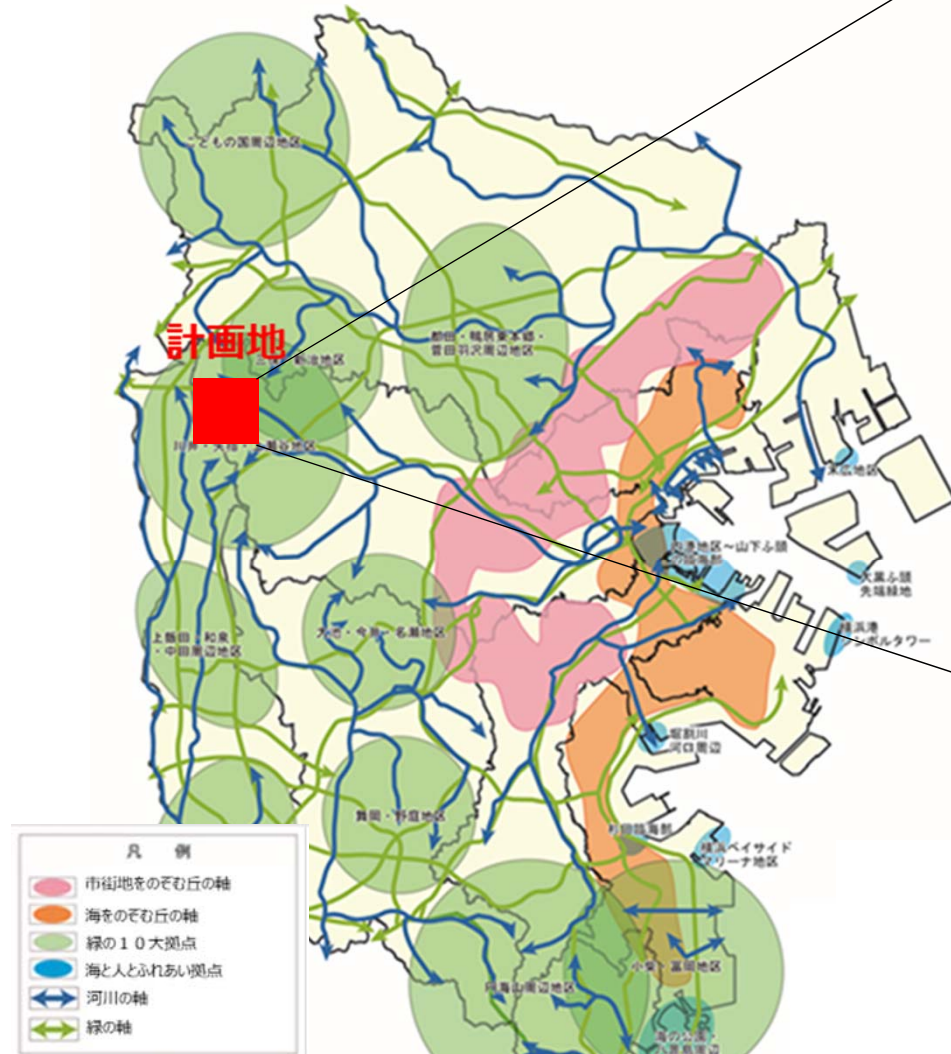
5.7 インフラ・ユニバーサルデザイン計画等

5.8 会場配置

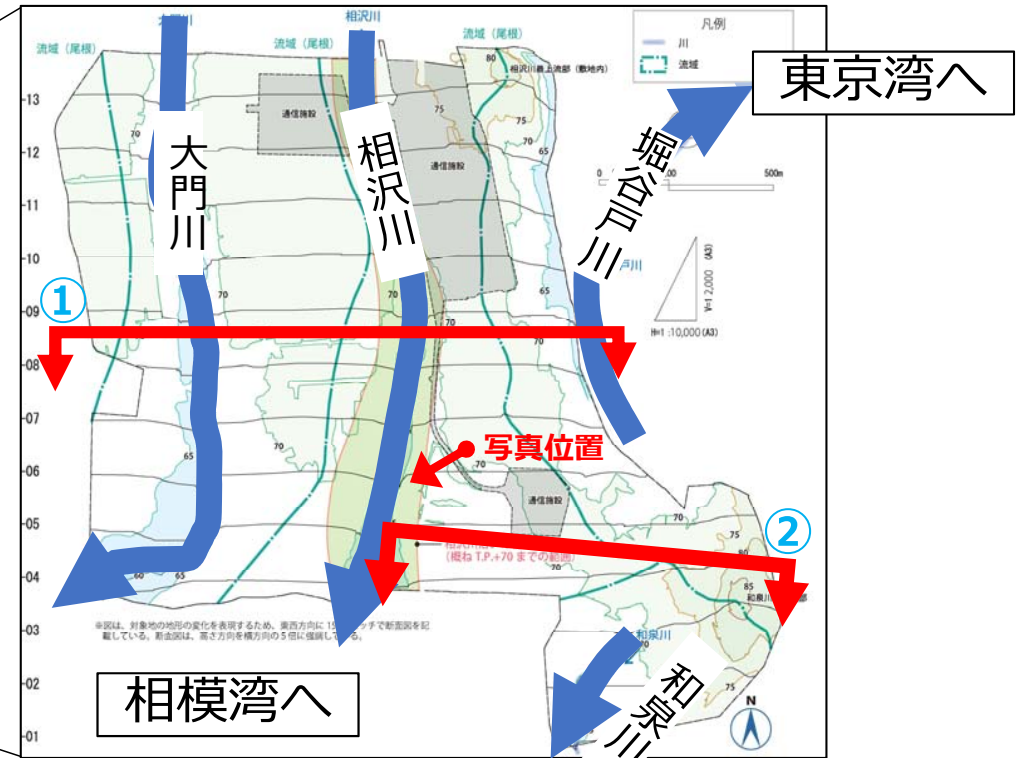
5.1 会場計画

(1) 広域的な自然特性

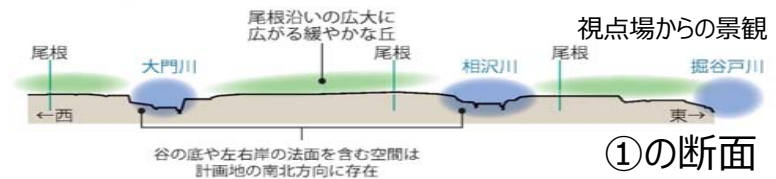
- ・緑の拠点に位置付けられ、東京湾や相模湾に流れる複数の河川の源流域にあたる。
- ・計画地は谷や丘が緩やかに連続する微地形を形成。



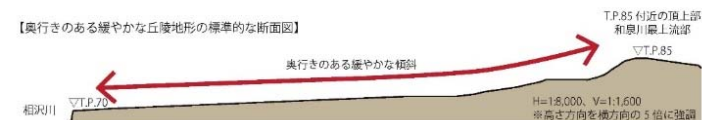
【横浜市における水と緑の回廊像】
(出展：横浜市水と緑の基本計画)



【谷と丘が緩やかに連続する微地形】



【奥行きのある緩やかな丘陵地帯の標準的な断面図】

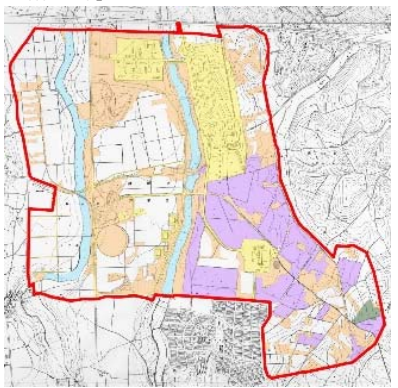
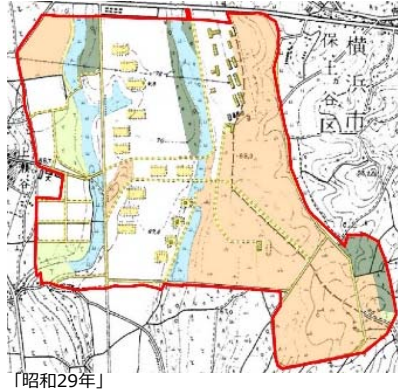


5.1 会場計画

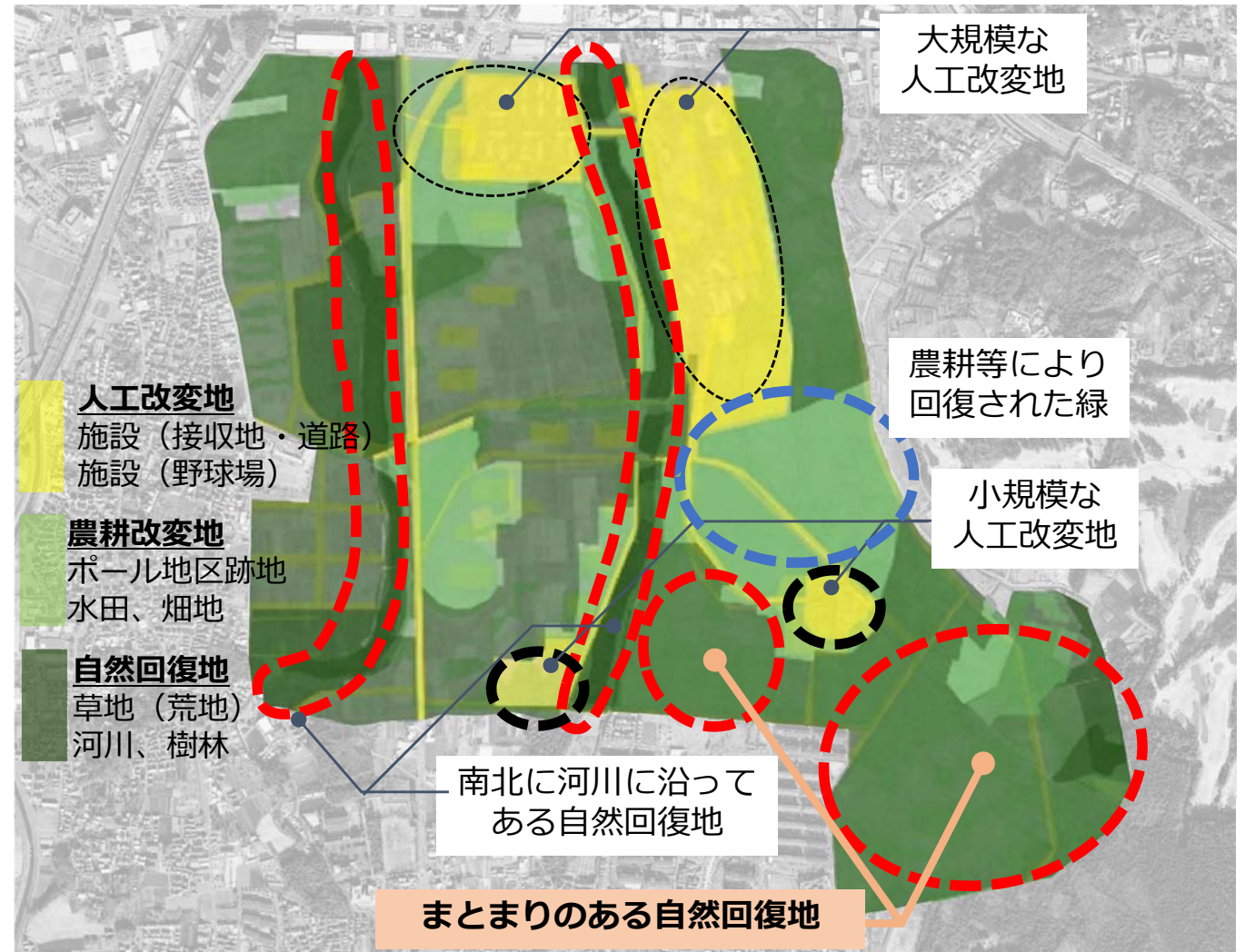
(2) 土地改変から見た自然特性

・過去からの土地改変より、地区の南側は人工的な利用から自然回復したエリアがまとまっている。

【土地改変の歴史】



凡例	
樹林	■
桑畑	■
畑地(乾田)	■
施設(接收地、道路)	■
無線電柱	■
草地(荒地)	■
水田(沼田)	■
野球場	■



「平成25年」(平成25土地利用を参考に作成)

5.1 会場計画

(3) 会場区域の設定

- 自然環境ポテンシャルを生かし、国際園芸博覧会にふさわしい会場エリアを設定。
 - ・市民の森から続く多摩三浦丘陵
 - ・谷や丘が緩やかに連続するパノラマ
 - ・相沢川沿いの谷戸地形

【会場計画で活かす環境ポテンシャル】



5.1 会場計画

(4) 将来まちづくりの検討状況

令和2年3月、旧上瀬谷通信基地跡地における「土地利用基本計画」を策定。

【基本計画の概要】

◇コンセプト

- ・今ある緑や農地を保全しつつ、ここでしかできない新たなコトやモノを創出することで、世界中のヒトやモノを惹きつける魅力ある空間を実現し、計画地を含む郊外部の活性化を目指す
- ・また、国際園芸博覧会の理念をみらいに継承・発展していく

◇テーマ

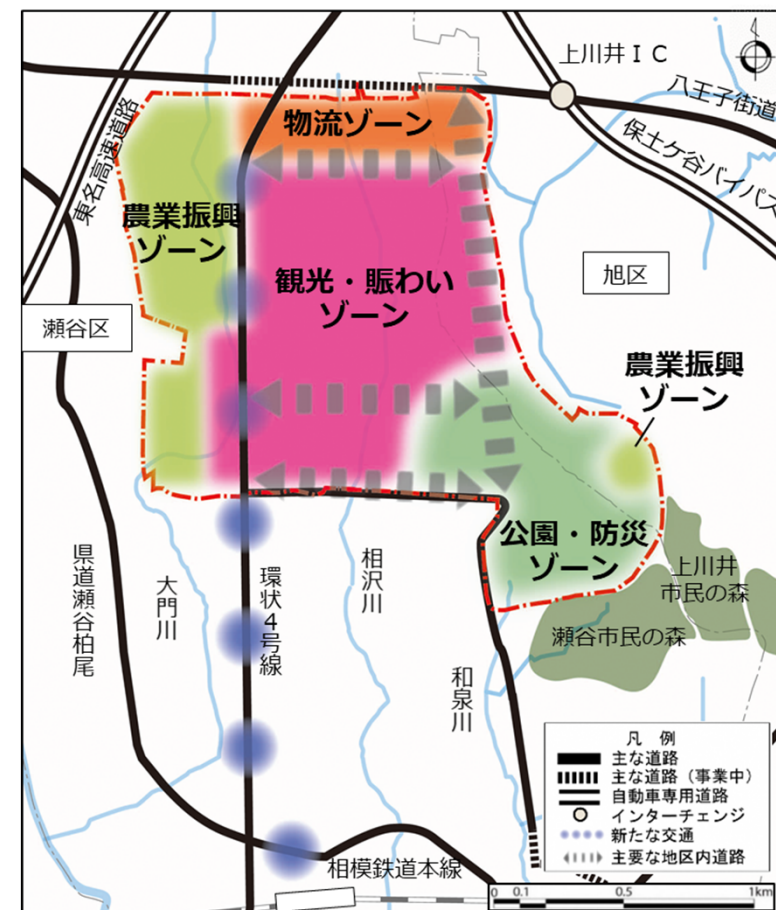
郊外部の新たな活性化拠点の形成
～みらいまで広げるヒト・モノ・コトの行き交うまち～

◇土地利用の構成

- ・農業振興ゾーン
- ・観光・賑わいゾーン
- ・物流ゾーン
- ・公園・防災ゾーン

◇基盤整備の主な考え方

- ・豊かな自然環境をいかした土地利用の検討と、地区全体で多様な機能を持つグリーンインフラを活用
- ・持続可能な都市農業を推進していくため、農業生産基盤の整備
- ・大規模な土地利用転換に伴う交通需要に対応するため、新たな交通の導入



【国際園芸博覧会との連携】

- ・計画地において、基盤整備の促進、国内外への地域の知名度やイメージの向上、さらには国内外の先導的なまちづくりに寄与するため、国際園芸博覧会の開催に向けた検討を進める。
- ・開催後の土地利用にあたっては、計画地全体でそのレガシーを継承・発展していく。

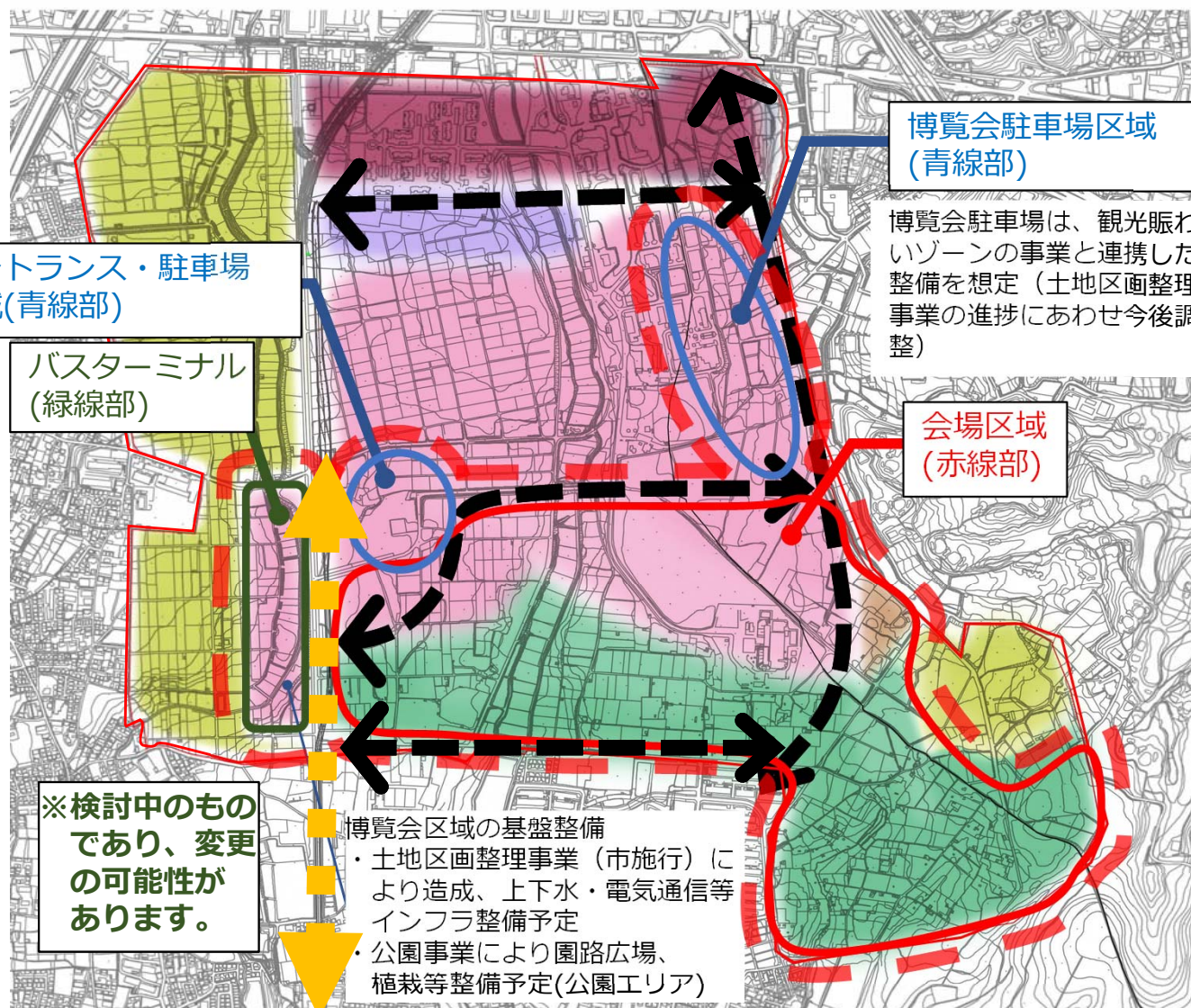
5.1 会場計画

※図中のまちづくりのエリアや施設は土地区画整理事業において検討中のものであり、詳細は変更していく可能性があります。

(5) 会場区域とまちづくりの関係

・博覧会区域は、旧上瀬谷通信施設土地利用基本計画(R2.3)における「観光賑わいゾーン」「公園・防災ゾーン」にまたがり設定。

- 物流施設
- 車両基地
- 観光賑わいエリア
- 農業振興エリア
- 公園エリア
- 防災エリア
- 地区内道路
- 新たな交通
- 博覧会区域【約80～100ha】
- 会場区域
- 博覧会駐車場
- 博覧会バスターミナル

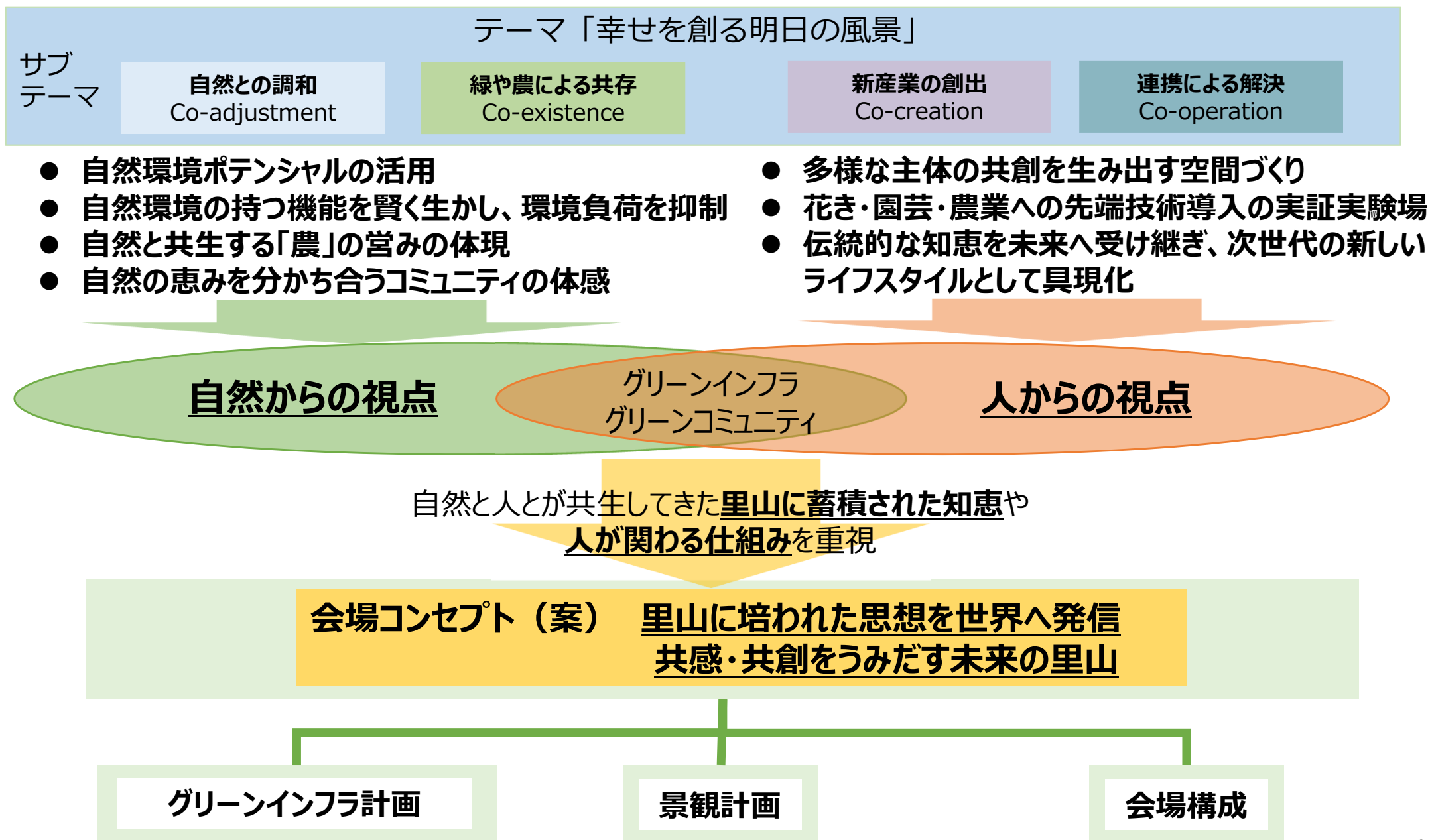


<整備スケジュール>

- ・博覧会区域の基盤整備を土地区画整理事業は 2022年頃から、公園事業(公園エリア)は、2023年頃から先行整備予定。
- ・会場整備は、設計を2022～2023年頃、工事を2024年頃より着手を想定。

5.2 会場コンセプト

- テーマ、サブテーマを踏まえ、会場に具現化していく方針として「里山に培われた思想を世界へ発信 共感・共創をうみだす未来の里山」を会場コンセプト(案)とする。



博覧会におけるグリーンインフラの考え方

- 身近な自然に関わることで環境に適応し、安心できる未来のライフスタイルを支えることを目指した「**人間と自然が共存する持続的な資源循環を内包する仕組み**」として捉える。
- その展開にあたっては、従来のグレーインフラを補完し様々な公益的機能をもたらす緑地空間として**存在効用（ハード）と利用効用（ソフト）の両面のあり方**を提示していく。

【自然と人間の視点から見るグリーンインフラの考え方】

自然の成長・復元力の最大化
環境負荷の最小化

存在効用
生態系サービスの享受

人間の持続的な関与
手入れ

利用効用
生きがい、達成感

【グリーンインフラの展開方法】

①サーキュラーエコノミー（循環型経済）の構築

- 伝統的な里山の知恵を受け継ぎつつ、先端技術を応用した再生循環型の会場を構築

②リバビリティ（快適性）によるコミュニティ形成

- 地球規模の大規模災害や感染症拡大などを背景に、自然との共生の重要性が高まっていることを踏まえ、人と自然に関わることで生まれる交流（グリーンコミュニティ）のあり方を提示

③ウェルビーイングの形成

- デジタル化がより一層進むことによって増大するストレスリスクを軽減するため、身近な自然との関わりを紡ぎ直すことによる安全で安心な働き方や暮らし方を提示

ソフトの展開例	・花や緑の維持管理を通じた交流 ・アスレチック、キャンプなどの自然体験の場の創出 ・農のある暮らし・農業体験・収穫体験 ・水辺を生かしたイベントによる交流 等	
ハードの展開例	ランドスケープ	・雨水や再生水の灌水利用 ・樹冠遮蔽・バームによる樹木遮音や遮蔽 ・シードバンク（土壌の利活用） ・植物廃棄物のコンポスト化・再利用 ・谷戸・里山地形の保全
	建築（屋外とのつながり）	・夏期の暖気排気と冬期の暖気循環 ・ゼロエネルギー建築 ・グリーンカーテン・解体資材の再利用 ・間伐材の利活用

5.4 景観計画（ランドスケープ・建築）

（１）基本的な考え方

- ①大平原の眺望や農のある上瀬谷でしかできない自然特性を活用
- ②日本の里山風景、日本庭園に代表される伝統的思想を取り込み
- ③四季の移り変わりや朝夕の時間ごとに表情を変える景観を視認できるよう、動線に高さが異なる多様な視点場の設置
- ④歩く楽しみや新たな移動手段により風景の発見を喚起し、移動自体を楽しむ
- ⑤花の持つ魅力を最大限に引き出し、鑑賞に限らない花や木、緑の香りなどの要素も含めた五感で感じる景観づくり

また、建築が果たす役割は、共創が生まれ育つ集いの場づくりや、主役である花・みどりや農の営みを生き生きと美しくみせるための風景の一体感を重視し、国際園芸博覧会の記憶が将来のまちづくりに確実に継承され、地域に根差した資産になることを目指す。

（２）具体的な展開例

- ・河川の窪地を活用した田圃や畑、それらを取り囲む雑木林など人と自然が共生する風景の再生
- ・時間帯や季節によって変化する自然を活かした会场景観の演出



- ・出会い、交流、発想につながる屋内外の共有空間（縁側、軒下、土間等）や共同作業の充実
- ・日本家屋を参考としつつ、CLT等の木材利用、仮設建築による可変性、多機能化・コンパクト化



5.5 会場構成

(1) 国際園芸博覧会を彩る庭園等

- 花や緑を主役とする国際園芸博覧会では、屋外における庭園や花壇が会場を構成する重要な要素であり、花き園芸産業、農業、造園業をはじめ様々な参加者による出展庭園等を想定。
- 大量の花苗等の植物を扱うため、管理運営上、必要な施設を整備。

区分	施設名称	想定規模	想定規模の考え方
屋外庭園等	公式参加（国際出展）庭園	30,000～50,000㎡	大阪花博実績（53ヶ国34機関：50～2,500㎡/区：平均約500㎡）から想定
	国内出展庭園・ 企業団体出展庭園	60,000～70,000㎡	大阪花博実績（協会37,000㎡、他60,900㎡）、 浜名湖花博実績（45,000㎡）より想定
	日本庭園	7,000～10,000㎡	大阪花博実績（約16,000㎡）を参考に借景となる 瀬谷市民の森との位置取りから想定

試験植栽圃場

- 開催前より、会場近隣の圃場および会場区域で試験植栽を実施。開花時期、管理方法や適性を把握。

植物ストックヤード

- 500万株を超える植物（参考：浜名湖花博501万株）を計画的に植替え作業を行うために、会場内または近隣に植物ストックヤード（会場内約2ha+会場外約1ha）の設置。

検疫関連施設

- 海外からの動植物の出展物等について、国が行う病害虫の検査などを実施する施設整備や検疫体制の協力。

保税関連施設

- 公式参加国に対する関税優遇措置を目的とした「保税展示場（海外出展エリア）」の設定。
- 入荷貨物の一次保管を行う保税留置場の設置。

5.5 会場構成

(2) 展示等の施設

- ・ AIPH規則、過去の国際園芸博覧会における実績、運営上の必要性を鑑み、数や想定規模を設定。
- ・ 環境負荷低減や建設費縮減の観点から多機能複合化、コンパクト化、3Rを積極的に図る。

区分	施設名称	想定規模	想定規模の考え方
展示施設	民間出展展示施設	18,000～24,000m ²	過去博を元に6棟程度を想定
	メイン展示施設※	10,000m ²	大阪花博メイン展示施設 床面積10,500m ²
	国際展示施設（コンペティション会場）	4,250～6,700m ²	大阪花博展示施設 3棟 床面積計9,863m ²
	国内展示施設（コンペティション会場）	3,000～5,000m ²	大阪花博咲くやこの花館 床面積6,890m ²
催事施設	大催事施設(3,000人規模)	8,000m ²	愛知万博大ホール 8,030m ² 、3,032人収容
	小催事施設(400～500人規模)	1,000～1,500m ²	大阪花博中ホール 1,700m ² 、500人収容
	屋外催事広場（文化芸術、国際交流等イベント会場）	18,000m ²	過去博を元に想定
サービス施設	診療所、案内所、各種サポート 等	4,000～6,000m ²	
運営施設	運営本部、倉庫 等	15,000～20,000m ²	過去博を参照
物販飲食施設	飲食物販施設	16,000m ²	

※政府出展も想定

5.6 動線計画

- 動線の検討にあたっては、**安全性、快適性、移動負担の軽減**などの機能を持たせ、更に、展示された花や緑を愛でながら**移動自体が楽しみになるような計画**とする。

来場者動線

来場者動線は、「会場全体を周遊できる主動線」と、「既存地形を利用した散策路としての副動線」により構成。

【主動線】

多くに来場者が、快適かつ安全に会場内を移動できるよう、十分な幅を持った動線。

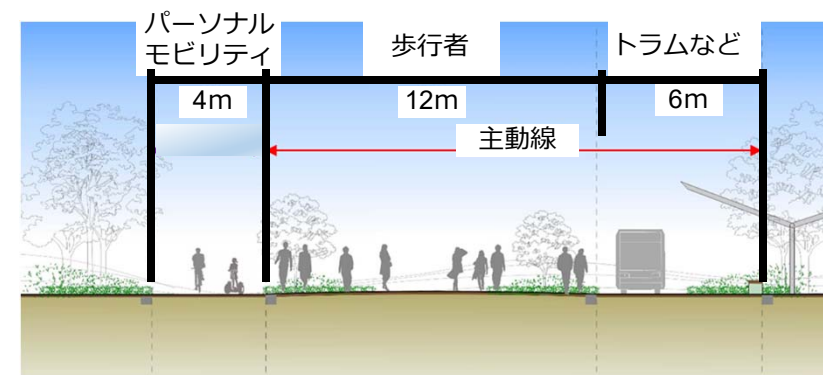
【副動線】

主動線を補完し、展示場や庭園へのアプローチなど、歩行者専用の動線。

【トラム・パーソナルモビリティ】

広い会場の移動を、誰もが快適に行えることを目的に、トラムや、移動そのものを楽しむパーソナルモビリティなどを導入。

【来場者動線イメージ】



東京2020オリンピック・パラリンピック事例
(※開催時に導入予定)

管理用動線

- 原則として、管理用動線は来場者動線と分離。
- 各パビリオンや施設へ直接搬入出ができるよう設定。
- 園内からは管理用動線が見えないよう樹木による目隠しや盛土によって景観上の配慮を行う。

緊急用動線

- 緊急用動線については、管理ゲートから会場内に入場しすべての動線を通行可能。
- 消防車両、救急車両が十分通行できる幅員と多方面からアプローチできる動線を確保。

VIP用動線

- 管理用動線と併用。
- 来場者動線の使用が必要となる場合は、観客とVIPが交錯しないオペレーション。

5.7 インフラ・ユニバーサルデザイン計画等

インフラ計画

「公園整備事業」により設けられる施設の活用や、土地区画整理等のまちづくり事業との連携を基本とし、地域の自然ポテンシャルや景観にふさわしいエネルギーのあり方を検討。

- ・電力は「再生可能エネルギー 100%」とし、地域や地方で生み出されるエネルギーの積極的活用とともに、創エネに取り組む。
- ・会場で排出される植物などの残渣を、たい肥化やメタン・エタノールといったエネルギーの再抽出など、民間企業との連携による資源の再循環。



風力発電設備の例

ユニバーサルデザイン計画

安全、快適で、多様性にも配慮したユニバーサルデザインの導入を図る。

(例) ・分かりやすい案内サイン、ピクトグラム

- ・多言語化
- ・ジェンダーフリー
- ・パーソナルモビリティやロボットなどが未来社会で活躍することなどを見据え、「段差」のない会場計画とするなど、シームレスな移動を可能にする社会の体現を目指す。
- ・会場までのルートにおいてもアクセシビリティを検討。



手洗い



換気

感染予防策の
ピクトグラムの
例

人と共存する
サービスロ
ボットの例



駐車場計画

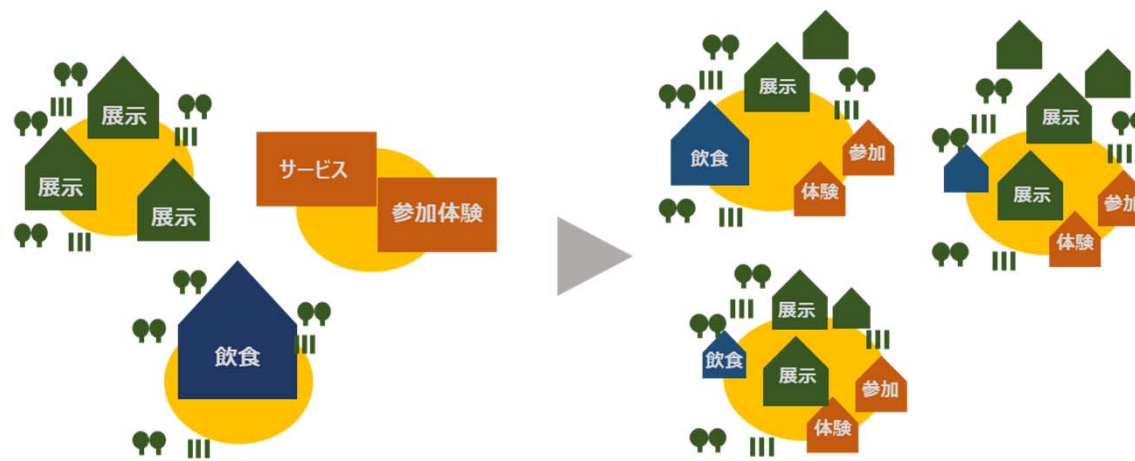
- ・来場者のアクセス性を高めるため、会場に隣接して団体バスや障がい者、自家用車の駐車場を設置。
- ・自家用車でアクセス需要を考慮し、会場から10km圏内の公共用地や公共駐車場などを活用した会場外駐車場を設置、シャトルバスで会場に行くパーク・アンド・ライド・システムを導入。
- ・世界的な電気自動車シフトの動向を踏まえ、会場に隣接する駐車場は、環境配慮型の車両（EV、FCV）を優先するなど、ゼロカーボンに向けた取組の促進。
- ・駐車場利用は、事前予約を導入し、円滑な誘導と会場周辺の渋滞対策を含む環境対策を図る。

5.8 会場配置（基本的考え）

会場配置については、ソーシャルディスタンスや来場者の利便性、共創の展開などを考慮し、次の視点を踏まえた計画とする。

【様々なコンテンツを会場全体で展開（「Village」の展開）】

- ・ 多様な参加者の、コンテンツの体験を通じた意識変容・行動変容を促進するために、同じ空間を共有する地縁的な環境をつくり、交流の機会を増やすことが重要。
- ・ 展示、体験、参加、飲食等の様々な機能を複合させた配置（以下「Village」という。）を会場内に展開。
- ・ これまでの機能別ゾーニングとは違い、コンテンツの分散による「密」の解消を図る。



機能別ゾーニング配置

機能が複合したVillageによる配置

【利便性や分かりやすさ】

- ・ 入退場口は、駅やターミナルなど交通結節点や駐車場に近接して配置。
- ・ 会場内の動線は、十分な広さを持った通路を主動線として、ループ状に設置。
- ・ 会場が東西方向で約1.5kmあるため、飲食エリアは3か所に分散して配置。
利便性の向上や、集中・混雑の緩和を図る。

5.8 会場配置（Villageのイメージ）

- 1つのVillageは1～3ha程度と想定。

【Villageの例】

花畑を中心に広場とステージがあり取り囲むように施設(展示、飲食、物販や体験)が配置

展示・・・ゲノム編集技術による発光する花

・・・花を用いたファッション

・・・エディブルフラワー園

・・・昆虫の目からみた花畑

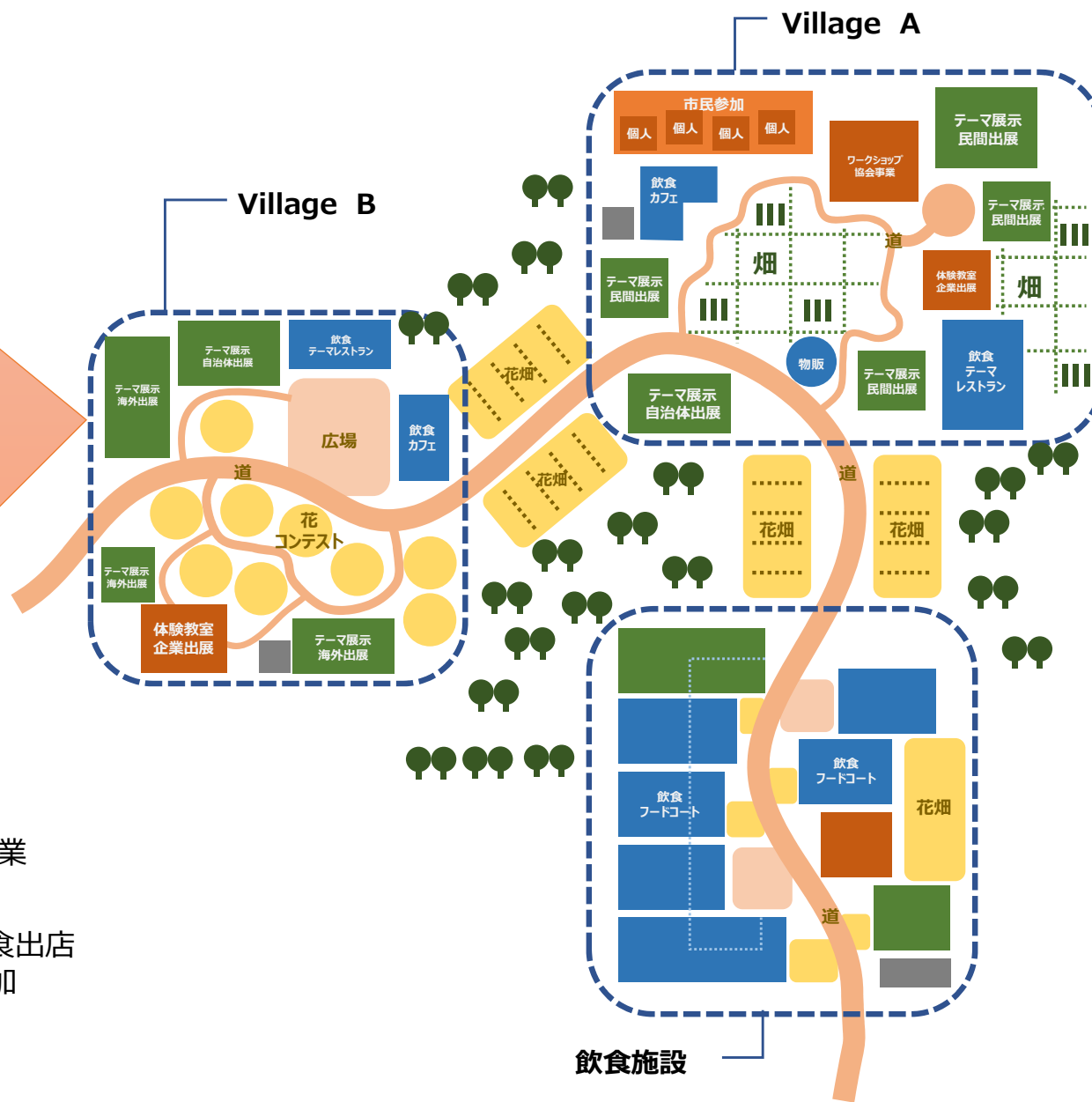
飲食・・・エディブルフラワーレストラン/カフェ

物販・・・花から抽出したコスメ等の販売

体験・・・フラワーアレンジメント

・・・花をテーマにしたファッションショーを開催

- 展示施設・・・民間出展、自治体出展、市民参加
- 体験/参加施設・・・民間出展、市民参加、協会事業
- 飲食/物販施設・・・テーマレストランとしての民間飲食出店
食品などの物販出店、市民参加
- サービス施設



5.8 会場配置（重視すべき自然的・機能的視点）

【自然的視点】



①相沢川軸周辺

- ・相沢川軸の谷を広大な平地が挟んでいる。
- ・軸の東側には「どこまでも広がる平地」や「急な崖地」など変化に富み、谷を見下ろすダイナミックな地形となっている。

②和泉川源流周辺

- ・森林に囲まれ緩やかな傾斜・起伏ある農地の名残がある風景が広がる。
- ・源流に沿って窪みが連続し、美しい樹形の特色ある木々が点在。

③地区東側の風致地区

- ・風致地区の樹林が、会場の借景となる。

【機能的視点】

①入退場口

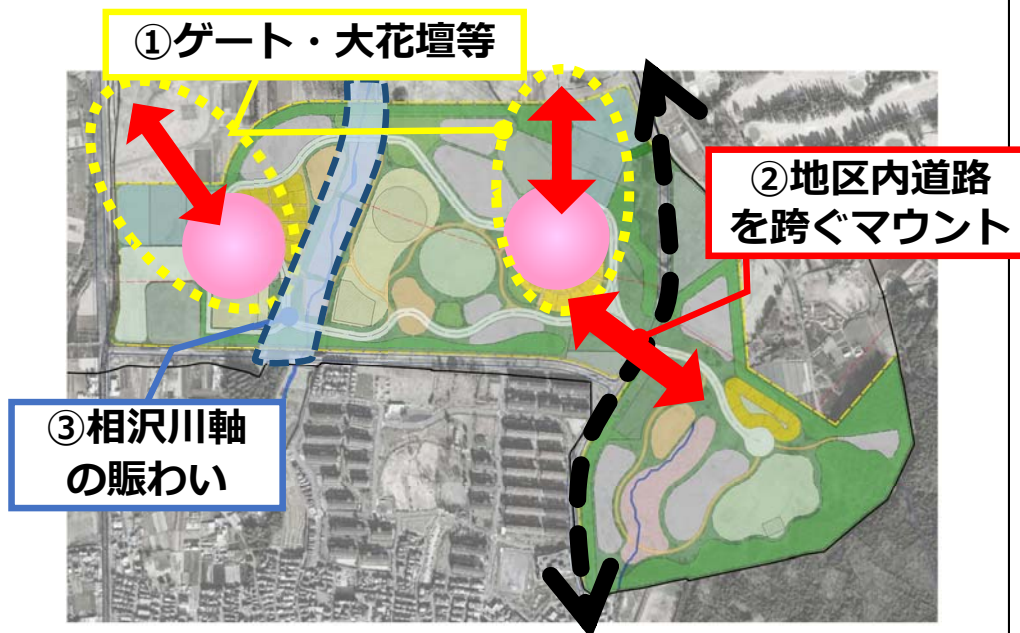
- ・駅やターミナル、駐車場からのアクセス性
- ・ゲート正面には、園芸博覧会の世界観を演出する彩りある大花壇などの展開

②地区内道路を跨ぐマウント

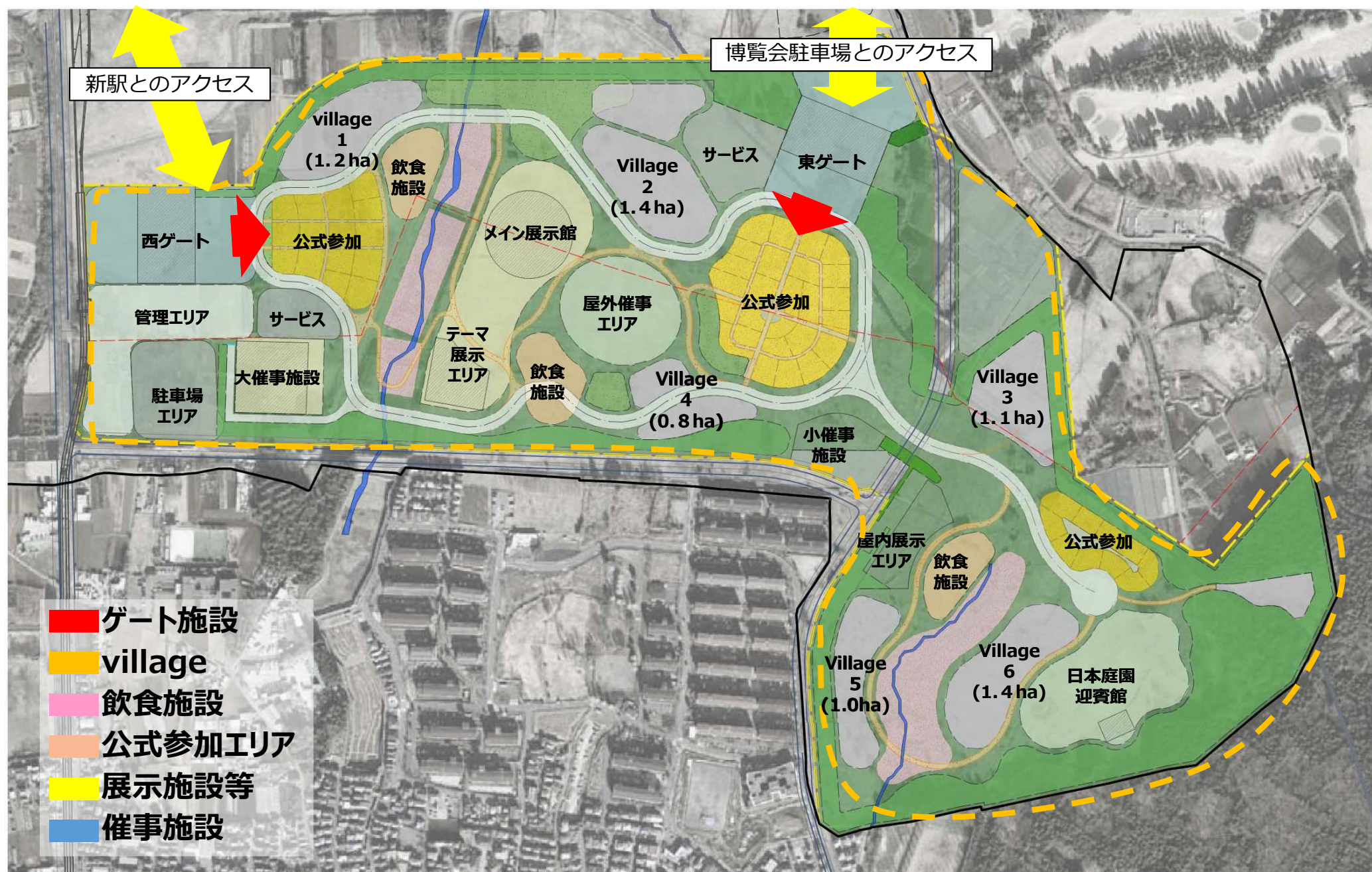
- ・会場内を通過する道路と立体交差
- ・緩やかに斜面を上がり、会場全体を見渡すパノラマが開ける演出

③相沢川軸を中心とした賑わい演出

- ・会場のアイコンとなる相沢川の谷戸の空間を中心にメイン展示館、ビレッジ、飲食など賑わいを展開



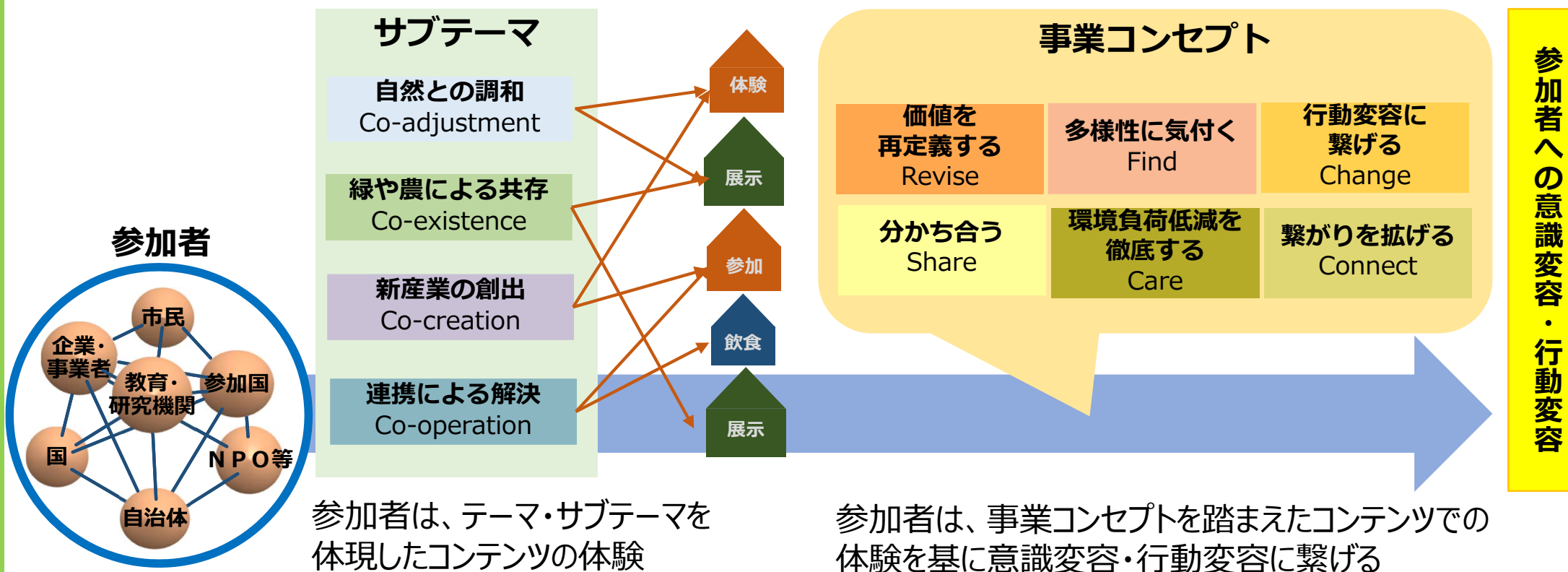
5.8 会場配置（イメージ）※会場区域における各施設等のボリューム感を検討する ものであり、配置等は今後検討予定



6.1 事業展開（展示・行催事方針）

- 展示・行催事は、本博覧会におけるテーマ・サブテーマを体現し、参加者に楽しみや驚き、感動などを与え、意識変容、行動変容に繋げる重要な役割を持つ。
- 展示・行催事の実施にあたっては、事業コンセプトを踏まえ、参加者に新たな価値や多様性への気づきなど、意識変容・行動変容に繋げる仕掛けの導入を意識する。
- AIPH規則等による、公式参加者※1による展示（10か国以上の参加、国際庭園等）や、公式行催事（開会式、ナショナルデー・スペシャルデー、コンペティション等）の確実な実施を行う。

※1 公式参加者：日本国政府による本博覧会への公式参加招請を受諾した外国政府と国際機関をいう。



6.2 事業展開（展示・行催事の種類）

（１）展示の種類

実施主体		展示種類	展示区分	展示の例
政府		屋内・ 屋外展示	政府展示	庭園、パビリオン
博覧会協会	公式参加者		テーマ展示	庭園、パビリオン、ブース出展 等
	非公式参加者※1			
博覧会協会 等	公式参加者		Village	
	非公式参加者			
公式参加者			その他	
非公式参加者				

※1 非公式参加者：公式参加者以外で博覧会政府代表から参加を認められたものをいう。（BIE規則）

※2 AIPH規定上、国際園芸博覧会（A1）の公式参加者出展は10カ国以上

（２）行催事の種類

実施主体	催事区分		行催事の例
博覧会協会	公式行事	AIPH・BIE規定	開会式、閉会式、ナショナルデー・スペシャルデーの式典
	公式催事	AIPH・BIE規定	ナショナルデー・スペシャルデーの催事
			前夜祭、都道府県/政令指定都市の日の催事、民間参加催事
	企画催事	AIPH・BIE規定	コンペティション
			プロモーションイベント、音楽/国際芸術文化交流イベント、大型テーマイベントの実施、ロングラン公演
公式参加者	催事		フォーラム、シンポジウム、国際文化交流イベント 等
非公式参加者	催事		アーティスト参加イベント、市民参加イベント、NPO・NGOイベント、パーソナル型イベント、国際会議、フォーラム、国際交流イベント 等

6.3 事業展開（コンペティション）

- コンペティションは、**園芸博覧会において重要な催事**であり、多くの参加者は、切り花や庭園、盆栽など様々な分野でその技術や知識等を競い、世界中の花き・園芸業界等から高い評価を受けることにより、花き・園芸技術の向上や優れた品種の育成、**花き・園芸産業の発展、花き・園芸文化の推進**等に**大きく貢献**してきた。
- 本博覧会においては、**AIPHで規定されるカテゴリに加え、テーマやサブテーマに沿ったカテゴリ**（共創による取り組み、ICTを活用した農業など）を**独自のコンペティションとして企画**し、博覧会が目指す「新たな花き・園芸文化の創出と関連産業の発展」や「日本・横浜でのグリーンシティの国内外への発信」に貢献する。

本博覧会でのコンペティション

AIPH規定のカテゴリ（例）

- ・ 季節の花
- ・ 鉢植え植物
- ・ フラワーアレンジメント
- ・ 観葉植物
- ・ ユリ
- ・ 盆栽 等



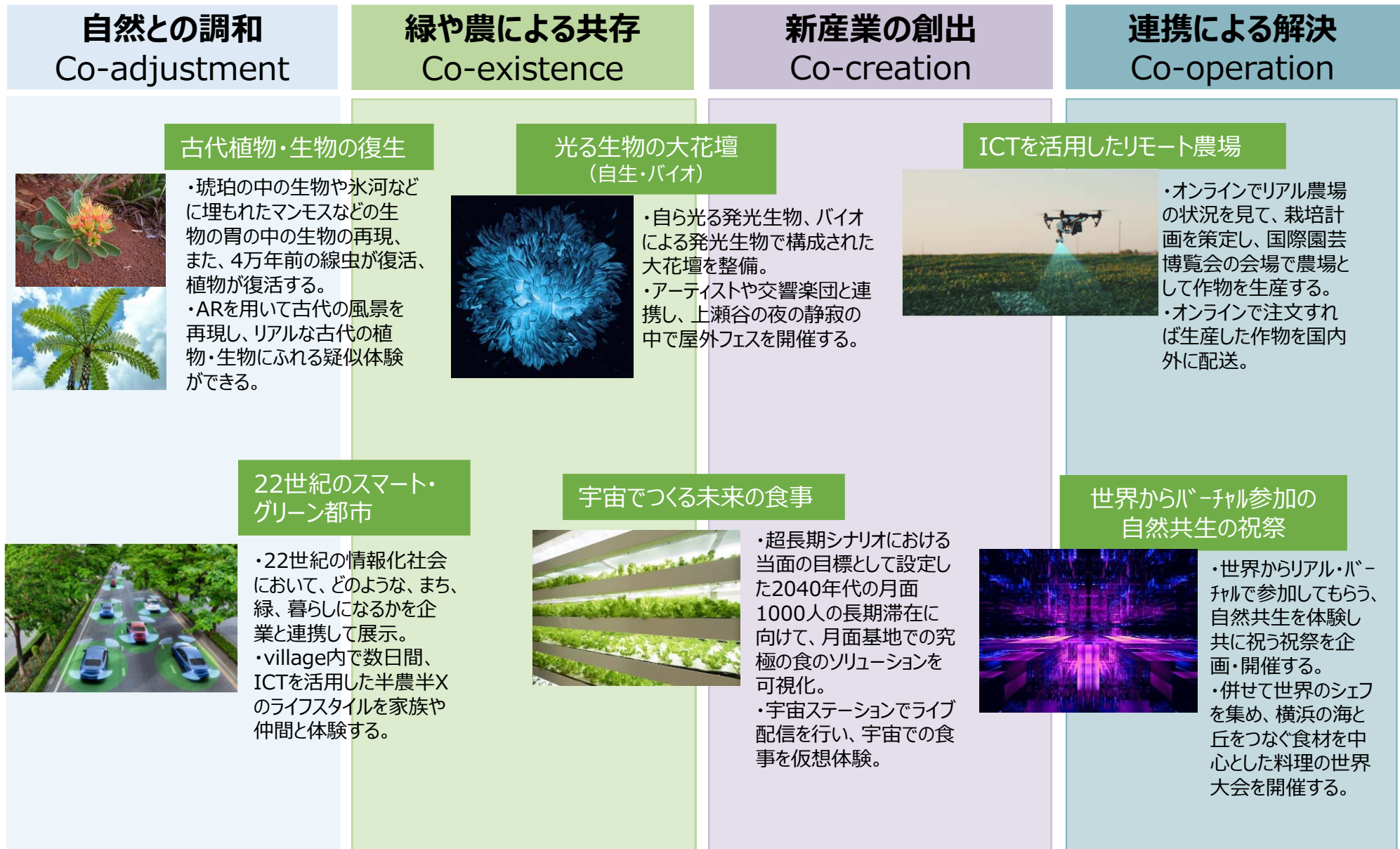
独自のカテゴリ（例）

- ・ 共創による取り組み
博覧会開催前から実施する共創による取り組みをコンペティションにおいて表彰する
- ・ ICTを活用した農業
- ・ 新たな食材の利用方法
- ・ 新品種の開発 等

6.4 事業展開（目玉コンテンツ）

- テーマ・サブテーマを踏まえ、本博覧会を象徴し、魅力と話題性が高い、目玉コンテンツを設定する。

目玉コンテンツのイメージ



7. 会場運営・管理計画

会場運営・管理方針

- ・ 来場者への配慮：安全性、利便性、快適性
- ・ 事業運営への配慮：防災性、効率性、実現性

来場者へのホスピタリティ

- ・ 晴雨寒暖を踏まえた接客、会場内移動の快適性に配慮

来場者サービス

- ・ 会場までの輸送も含め、楽しい雰囲気の中で見学、体験ができるサービス
- ・ 世界の宗教・文化や個人の多様なニーズに応えるきめ細かいサービス

警備・セキュリティ

- ・ テロ関連：シャトルバス・入場ゲート、会場上空、VIP、サイバー空間等
- ・ テロ以外：偽造チケット、園地荒らし、スリ・盗難、違法撮影等

清掃リサイクル

- ・ 閑散期清掃（夜間）・繁忙期清掃（ゴミ・トイレの美観を維持する対応）
- ・ 3Rに加えた新たな取組みの検討

消防・防災

- ・ 火災・災害発生時における安全優先の対策、周辺都市の消防との連携

救急・医療

- ・ 会場内で想定される事故・ケガ別の対処方法の検討
- ・ 緊急時の初動処置、救急搬送先の確保等の体制の構築

暑さ対策

- ・ 混雑する場所の暑さ対策
- ・ 空調設備に加え、緑化・打ち水などを活用した暑さ対策

環境管理（園地管理）

- ・ ボランティアや来場者、福祉との連携など、様々な主体が植物の維持管理作業に参加できる体制の構築
- ・ 実習した技術をソフトレガシーに継承

植物調達

- ・ 博覧会で使用する植物は、市場流通品と異なる規格や、大規模かつ一時に集中するため、計画的な生産体制と生産過程のチェック体制を構築

会場内外物流

- ・ 関係機関と調整を行い、物流費の負担、保税展示や保税留置場等の制度設計を検討
- ・ 国内外経路・場内輸送・保管・廃棄の貨物量推定を行い、必要な物流運営体制の検討

検疫

- ・ 国際博覧会条約に基づく会場での検疫等を、植物防疫所などの関係機関と連携した体制を構築

8.1 輸送計画（会場までのアクセス）

（１）海外及び主要都市からのアクセス

【空路・海路】

- ・ **空路は羽田空港**・成田空港からのアクセスを想定。
- ・ **海路は横浜港**（大さん橋ふ頭や新港ふ頭など客船ターミナル）を想定。

【主要都市からのアクセス】

- ・ **新幹線アクセス**は**新横浜駅**利用が主となることを想定。
また、2027年の開業を目指すりニア中央新幹線の整備が進捗。
JR横浜線橋本駅周辺に新駅を計画、新横浜までのアクセス性が高い。
- ・ 高速道路は、至近の東名高速道路横浜町田ICがあり、首都圏からも圏央道などの交通ネットワークにより広域からの利便性が高い。



（２）会場周辺のアクセス

【鉄道】

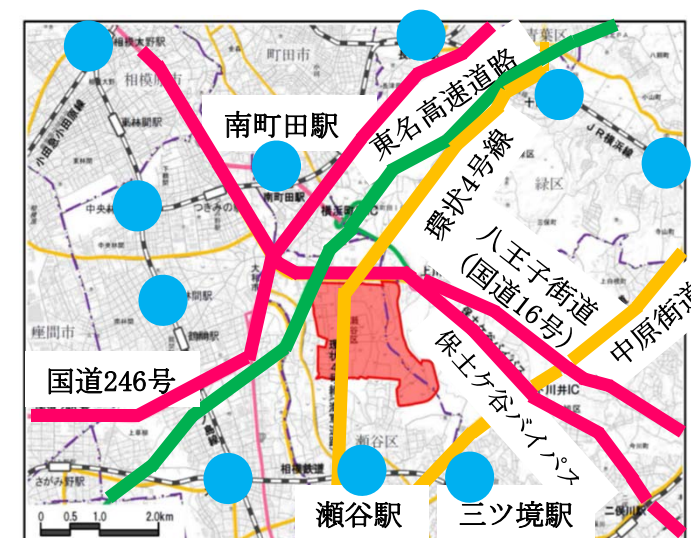
- ・ 近隣の駅として、南側約2kmに「**瀬谷駅**」や「**三ツ境駅**」、北側約2kmに「**南町田駅**」。
- ・ 会場周辺を囲む形で複数の路線があり、周辺駅からのアクセスを想定。

【道路】

- ・ **東名高速道路**及び**保土ヶ谷バイパス**、国道246号、八王子街道、環状4号線、中原街道などの幹線道路が計画地周辺にある。

【会場駐車場】

- ・ 会場に隣接して団体バス、障がい者、自家用車の駐車場を整備。
- ・ 会場から概ね10km圏内に会場外駐車場を整備、「パーク＆ライド」を導入。



8.2 輸送計画（上瀬谷周辺の整備）

- 周辺道路の拡幅、新規整備や新たな交通などの計画が進んでおり、博覧会の開催にあわせ活用する。

【旧上瀬谷通信施設跡地における将来まちづくりに合わせた基盤整備計画】



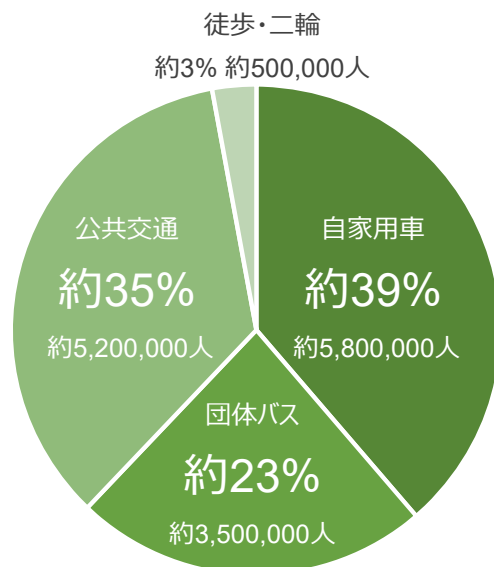
事業の種類	概要	凡例
都市計画道路の整備	- 八王子街道の拡幅 - 三ツ境下草柳線等の整備	
土地区画整理事業	- 環状4号線の拡幅 - 地区内道路①、及び、地区内道路②の整備	
新たな交通	相模鉄道「瀬谷駅」から新交通システムの整備	

8.3 輸送計画（輸送アクセス検討）

（１）来場者の交通手段について

- ・ 会場の立地特性をふまえ交通手段の分担率を想定。
- ・ 幹線道路等の利便性が高いことから、自家用車での来場者が多くなる傾向にある。

【交通手段の分担率及び手段別来場者数】



【交通手段別の平日・休日来場者数】

	交通機関別入場者数						
	自家用車		団体バス		公共交通	徒歩二輪	総入場者
	人数	台数	人数	台数	人数	人数	
平日平均	約24,700人	約8,240台	約18,000人	約510台	約24,100人	約2,000人	約68,900人
休日平均	約46,100人	約15,360台	約21,800人	約620台	約39,400人	約3,300人	約110,500人

※今後、交通事業者等との協議により変わる場合がある。

（２）輸送アクセス(案)

（自動車）

- ・ 自家用車の需要に対応するため、会場に隣接して約7,000台（団体バス・障がい者用含む）の駐車場を整備。
- ・ また、周辺道路渋滞の発生、緩和をはかるため会場外駐車場も整備し、「パーク＆ライド」を実施。

【具体化検討の視点】

- 会場外駐車場の活用を促し自家用車の分散を図ることで、会場周辺の渋滞発生の影響を最小限にできる。
一方で多客日には駐車場出庫時の混雑が想定されるため、迂回路の設定など更なる対策について関係機関と協議していく。

（公共交通）

- ・ 新たな交通の活用とともに、複数の鉄道駅に囲まれた特性を活かし、会場周辺の各駅からのシャトルバスによる輸送を基本。
- ・ シャトルバスについては、会場周辺駅、ターミナル駅、広域交通（空港・新幹線駅）など9箇所を想定。

【具体化検討の視点】

- 各駅の発着場数の設置については、1～4バースと対応可能な規模と試算。
- 今後、関連輸送事業者や施設管理者と調整を進め、効率化・速達性の視点から更なる検討を進める。

【会場演出】

自然価値を生かし「人と自然の共生」を幸せの風景（シーン）として演出。

- ・花き、園芸の祭典にふさわしいシンボリックなガーデン
- ・上瀬谷の原風景を五感で感じる非日常の雰囲気

【総来場者1,500万人の分析】

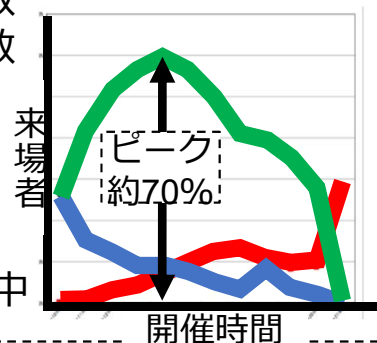
→1日の来場者（設計基準）約15万人/日

（総来場者の約1%）

（1日の入退場モデル）

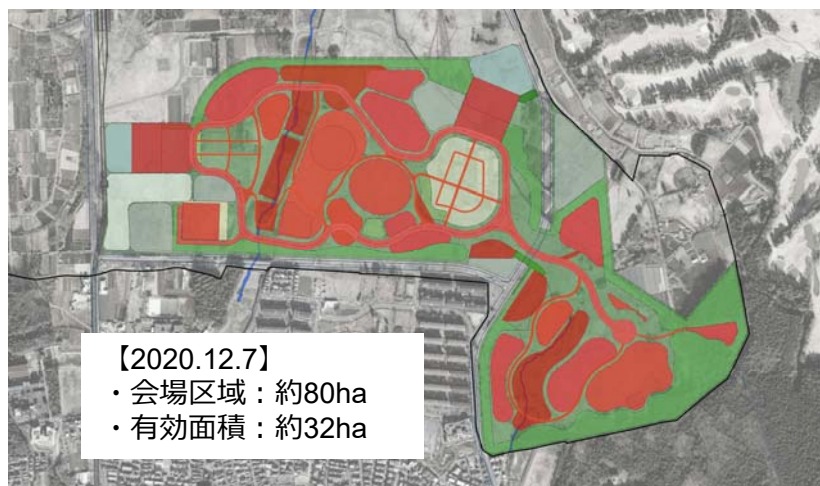
- ・青い線：1時間あたり入場者数
- ・赤い線：1時間あたり退場者数
- ・緑の線：会場内の滞在者数

※ピークは1日の総来場者の約70%（推計）



= 10万人以上が会場に一時集中

【会場計画】滞在エリア = 約32ha



【2020.12.7】

- ・会場区域：約80ha
- ・有効面積：約32ha

◇総来場者について検証

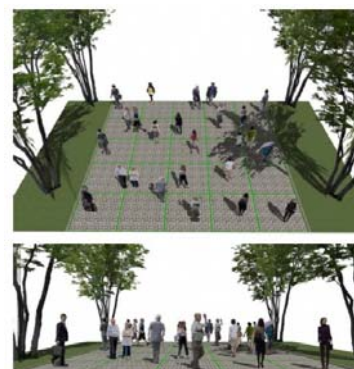
【海外の事例】

- ・2022年 オランダ(アルメレ) 約60ha 約200万人想定
- ・2023年 カタール(ドーハ) 約170ha 約300万人想定

【会場計画と混雑度（密度）の関係】

左図約32haと混雑度（密度）から、総来場者を検討

- ・適度な空間の確保→4.00m²/人（100m²あたり25人）



	4.0m ² /人
最大滞留者数	80,000人
1日の来場者数 (設計基準)	約112,000人
総来場者	約1,120万人

【輸送アクセスからの視点】

- ・1,500万人を前提に道路(交差点)や各駅の影響を検証し、平日、休日平均で大きな渋滞は発生しないが、特異日では渋滞や混雑等も想定。
- ・総来場者数を抑えると道路等への負荷が軽減されるため円滑なアクセスにつながる。

【まとめ】

- ・自然ポテンシャルを生かしたテーマを体現する最適な空間のあり方
- ・来場者の円滑な移動や会場へのアクセス向上の検討
- ・デジタル(バーチャル)や連携事業など、博覧会への「参加」のあり方

など、総来場者について、更なる検討を進める。

9. 情報基盤計画

- ・ 博覧会の目的達成に向け、**円滑な運営と参加者の体験を支える土台**として、ICT（情報通信技術）を活用する。
- ・ 展示出展計画、会場計画等の各計画において、ICT活用の検討を進める際には、**安全性・効率性・利便性・エンターテインメント性・先進性の視点**で総合的に判断する。

ICT活用の例

廃棄物や電力使用状況の見える化

VR/ARを活用した展示

会場の混雑状況予測

植物維持管理の自動化、省力化

個人属性に応じたサービス提供（展示・体験・飲食のレコメンド等）

博覧会アプリを用いた会場周辺の回遊促進

ICT活用の検討に必要な視点

安全性

法令等の必要なルールを遵守し、利用者に安心安全を提供できるか

効率性

限られた資源（ヒト・モノ・カネ）の有効活用に寄与するか

利便性

利用者にストレスなく、快適な体験を提供できるか

エンターテインメント性

気づきや面白さを提供し、楽しみながら行動変容を起こせるか

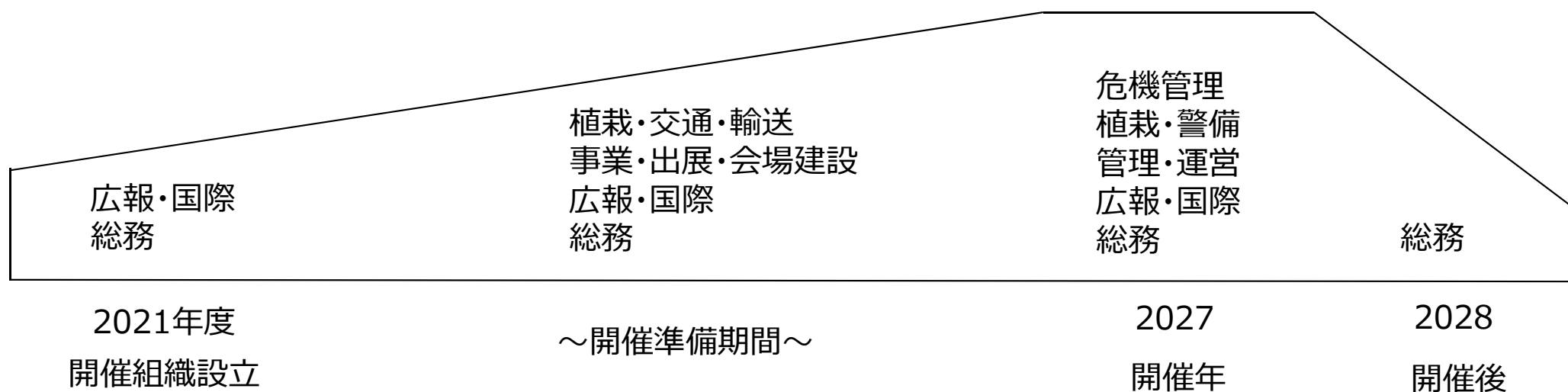
先進性

最先端の技術で、利用者に未来や新しい体験を提供できるか

(1) 組織計画の基本的な考え方

- ・ 開催組織は、2021年秋以降の設立を想定。
- ・ 設立当初は「一般社団法人」を想定し、公益法人化を目指す。
- ・ 2027年の開催に向けて十分な準備体制を段階的に構築する。
- ・ 花き、園芸、農業など国際園芸博覧会ならではの専門的なセクションを設置する。
- ・ 過去博の組織体制を参考にしつつ、効率的・効果的な、未来志向の組織運営体制を構築する。

(2) 組織計画のイメージ



- 資金計画は、「会場建設費」及び「運営費」から構成される。

(1) 会場建設費の構成費目

- 会場建設費の財源は、国、地方自治体、民間の負担を想定（負担割合は今後調整）。
- 支出費目には、出展関係建設費、サービス・管理施設整備費等があるが、国際園芸博覧会の特色としては緑地修景等の費用が見込まれる。
- ICT関係（通信・電気設備等工事）の費用が必要。

大費目	主な内容
基盤施設整備費	会場の基盤となる敷地の造成工事、道路・歩道・広場等の舗装工事、緑地修景 等
基盤設備整備費	電気給排水工事、雨水排水、通信・電気設備等工事(ICT関係のソフト含む)の整備 等
輸送関係費	エントランス工事(ゲート内・前広場)、バスターミナル、タクシー乗り場、発券所 等
パビリオン建設費	国際展示館、テーマパビリオン(屋内・屋外)、屋内花展示、屋外花展示の整備費 等
出展関係建設費	各国出展エリア、民間出展エリア等の整備費 等
サービス・管理施設整備費	サービス施設(トイレ、インフォメーション、救護室、郵便局等)、管理施設(管理棟、警護施設、清掃施設等)、什器備品等の整備費 等
営業施設	飲食施設・物販・サービス施設等の整備費(A工事費のみ) 等
会場内演出整備費	環境演出(音響、照明、暑さ対策等)、サイン関係(サイン、バナー等)の整備費 等
計画・設計費	会場計画の検討費や設計・工事監理費 等
解体撤去費	仮設施設の解体撤去費 等

(2) 運営費の構成費目

- 本博覧会では、入場料収入が中心となる想定をしているが、今後の社会情勢等に応じて、出展料収入（主に企業出展）等について精査する必要がある。
- 運営費としては、事業運営費、会場管理費、観客対策費、広報宣伝費等を想定するが、花苗の植え替え費、庭園・花壇の維持管理費、栽培員の人件費、光熱水費等の割合が高くなる傾向がある。
- 多様な主体の参加と共創による博覧会とするため、共創に係るコーディネートやマネジメントに要する費用が想定される。

—	大費目	主な内容
収入	博覧会事業収入	入場料収入、出展料収入、共創事業収入、営業権利金収入、売上納付金収入 等
	付帯事業収入	シンボルマーク使用料収入、供給処理施設使用料収入、協賛広告収入 等
	その他収入	協賛金収入、駐車場利用収入、運賃収入、宿舍等使用料収入 等
支出	会場運営費	会場運営管理費(会場内の輸送システム・警備・緊急救護・消防等)、施設管理費(供給処理施設の維持管理 等)、花・樹木の維持管理費、来客対応、案内サービス費 等
	事業運営費	国内・海外出展対策費、AIPH・BIE関連事業費、テーマ展示・普及費、行事・催事費、共創事業費、場内営業管理費、広域展開費 等
	観客対策費	入場券関係対策費、観客対策費 等
	広報宣伝費	国内・海外広報費、報道対策費 等
	管理関係諸費	諸給与費(協会直接雇用の費用)、一般管理費、AIPH・BIE納付金、支払利息 等
	その他	輸送関係費支払利息、予備費、(特別会計拠出金) 等

10.2 資金計画

(3) 過去博における運営費の比較

- 収入は、過去博から入場料収入の割合を7割、有料入場者を1,000万人、入場料を平均2,500円と仮定。

運営費（収入）

	大阪花博（実績）	淡路花博	愛・地球博（実績）	横浜園芸博（想定）
来場者数	2,313万人	695万人	2,205万人	1,500万人
総収入	594億円	228億円	899億円	約357億円
博覧会事業収入	94.9%	93.1%	76.6%	—
うち入場料収入	82.9%	60.8%	68.8%	70.0%
うち出展料収入	3.2%	17.4%	0.1%	—
付帯事業収入	5.1%	2.2%	4.1%	—
その他収入	—	4.7%	19.3%	—
うち協賛金収入	—	—	9.8%	—

※ 大阪花博は別途、特別会計事業による収入（駐車場、シャトルバス事業等収入）がある。
淡路花博の出展料収入は施設参加収入等を含む。

- 淡路花博の支出費目割合を用いて算出すると以下ようになるが、今後、国内で開催された園芸博の収支構造を踏まえ、さらに精査していく。

運営費（支出）

	大阪花博 （計画改定時）		淡路花博 （実績）		愛・地球博 （実績）		横浜園芸博 （想定）
来場者数	2,313万人		695万人		2,205万人		1,500万人
会場面積	140ha		96ha		173ha		
入場料	2,990円（大人）		2,900円（大人）		4,600円（大人）		2,500円（平均）
【支出】(億円)							
会場運営費	176.8	33%	38.6	28%	178.0	28%	100.0
事業運営費	108.8	21%	37.3	27%	93.0	15%	96.4
観客対策費	41.8	8%	30.2	22%	71.0	11%	78.5
広報宣伝費	33.0	6%	13.2	10%	124.0	20%	35.7
一般管理費	123.8	23%	17.7	13%	166.0	26%	46.4
その他	46.1	9%	—	—	—	—	—
	530.3	億円	137.0	億円	632.0	億円	（仮定）約357億円

※ 大阪花博の「その他」には、駐車場、シャトルバス等輸送費を含む

(1) リスク管理の目的

本園芸博の運営の基本は、来館者やスタッフの安全確保を第一とすることであり、想定されるリスクを抽出し、適切に対応することが重要である。この視点によるリスク管理の目的は次のとおり。

①事業全体の円滑な推進、②安全・安心の実現、③危機的事態への迅速な対応

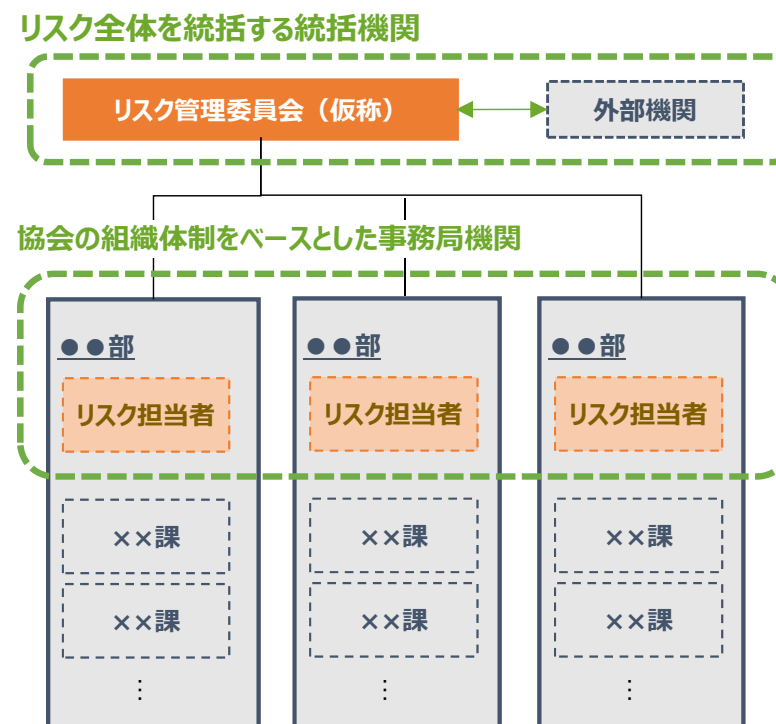
(2) 想定されるリスクの抽出

リスク分野	事象
社会リスク	風評被害、国際紛争、集団感染症・食中毒、テロ・犯罪 等
事業管理 リスク	【開催前】 造成行為・建設工事遅延、調達・物流障害、参加招聘不調、運営人材不足、チケット販売不振 等 【開催中】 会場内混雑、交通混雑、式典運営不備、宿泊施設不足 等 【開催後】 出展撤退遅延、移設先調整不備 等
自然災害 リスク	大規模自然災害、猛暑、暴風雨、地盤沈下 等
情報管理 リスク	情報漏洩、システム障害・故障、サイバー攻撃 等
財務リスク	スポンサー撤退、財務上の問題 等
事故・故障 リスク	火災、停電、断水、設備不具合・故障、設備不具合・故障 等
遺伝資源 リスク	出展品の盗難による違法商業利用、生物多様性条約に反した海賊品の使用、出展植物の逸脱による国内遺伝子攪乱

(3) 組織のあり方（案）

組織のあり方は下図のとおり。必要に応じて政府をはじめ県、市などとの連携を図る。

(イメージ図)

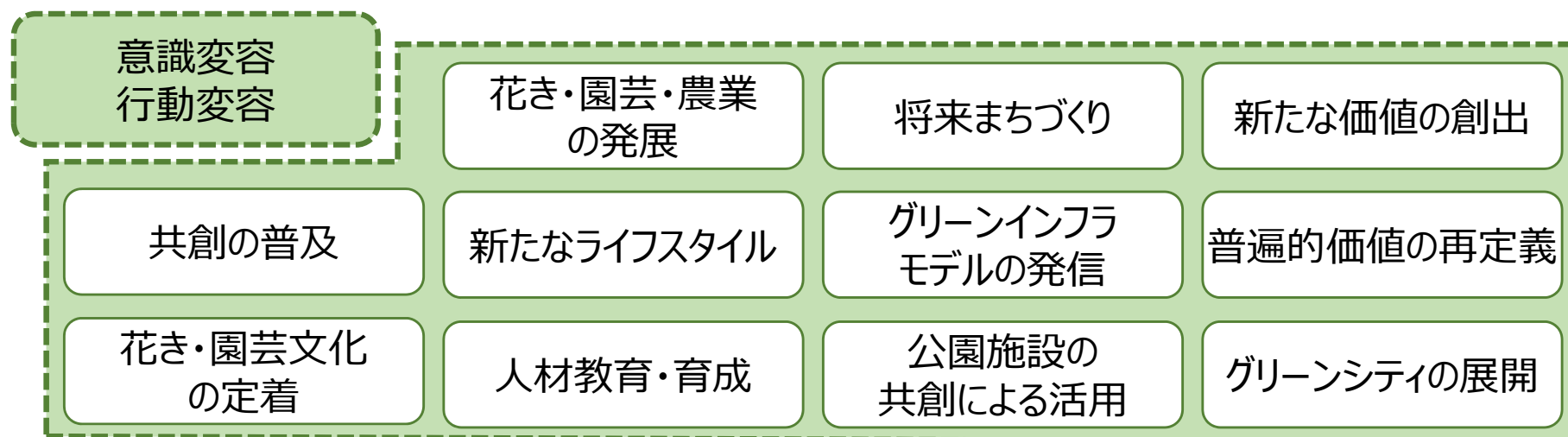


(1) 博覧会のプロセスを通じたレガシーの結実

- 博覧会のレガシーは、テーマの実現に向けた博覧会のプロセスの中で紡がれ、未来に繋がっていく。
- 計画の段階から、テーマの展開により想定されるレガシーの方向性を描きながら、博覧会のプロセスを通じてレガシーを結実させていく。

(2) テーマを展開するレガシーの方向性

- 博覧会の開催前～開催～開催後を通じた共創により、「参加者自らが作った博覧会」という意識を醸成し、共創の熱意や、意識変容・行動変容に繋げる。
- 共創による取り組みが、博覧会が行われたことを象徴する公園施設やアートなどを有効活用しながら継続・発展されていくことや、日本・横浜をモデルとしたグリーンシティの展開など、レガシーの方向性を想定しながら、本博覧会のプロセスを進める。



第1回目

1. 基本認識
2. テーマ・サブテーマ・事業コンセプト
3. 参加方針
4. 事業運営計画
5. 会場計画
6. コミュニケーション計画
7. 輸送計画
8. レガシー計画
9. 事業費・事業スケジュール

基本認識、サブテーマ、事業コンセプト等を中心に議論

第2回目（本日）

1. 基本認識
2. テーマ・サブテーマ・事業コンセプト
3. 参加方針
4. コミュニケーション計画
5. 会場計画
6. 展示・行催事計画
7. 会場運営・管理計画
8. 輸送計画
9. 情報基盤計画
10. 組織・資金計画
11. リスク管理計画
12. レガシー計画

第1回目検討会で議論したサブテーマ・事業コンセプト等から具体的な方針を提示

第3回目（2月）

第1回・第2回
検討会の
取りまとめ

第1回、2回での
議論を踏まえ、
計画市案取りまとめ